



小学6年生相当～高校1年生相当の女子と保護者の方へ

HPVワクチンについてのお知らせ

(ヒトパピローマウイルス)

子宮頸がんは、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがん、ヒトパピローマウイルス(HPV)という皮膚や粘膜に感染するウイルスが主な原因です。HPVには子宮頸がんを起こしやすい型があり、HPVワクチンは複数の型の感染を防ぐため、子宮頸がんの原因の約80～90%を防ぎます。また、がんになる手前の状態(前がん病変)が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることも分かってきています。



HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。また、頻度は不明ですが、重い副反応が起こることがあります。接種後に気になる症状が出たときは、まずは接種した医師やかかりつけ医にご相談ください。HPVワクチンの効果とリスクについて十分に理解した上で、接種をご検討ください。

HPVワクチン接種対象者・接種期限・接種回数等

【定期接種に使用するワクチン】

9価ワクチン(シルガード9)

【定期接種対象者】

平成22年4月2日生まれ(高校1年生相当)～
平成27年4月1日生まれ(小学6年生相当)の女子

【接種期限・接種料金】

高校1年生相当の年度末(3月31日)まで。接種期限内は無料。
(予診票は小学6年生相当時に送付済みですが、お手元がない場合は母子健康手帳をご持参の上、健康づくり推進課窓口までお越しください)

【接種回数】

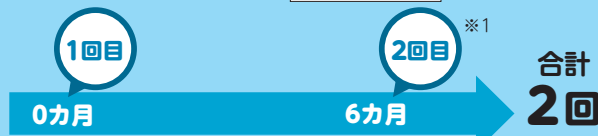
2回または3回。接種する年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります(右記参照)。
詳しくは接種する医療機関に相談してください。

※1年以内に規定回数の接種を終えることが望ましいとされています。

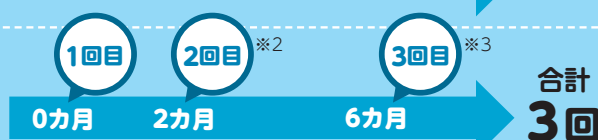
一般的な接種スケジュール

シルガード9

1回目の接種を
15歳になるまでに
受ける場合



1回目の接種を
15歳になってから
受ける場合



(※1) 1回目と2回目の接種は、少なくとも5カ月以上あけます。5カ月未満である場合、3回目の接種が必要になります。(※2・3) 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2カ月後と6カ月後にできない場合、2回目は1回目から1カ月以上(※2)、3回目は2回目から3カ月以上(※3)あけます。

【接種方法】

県内の医療機関での個別接種となります。市内の実施医療機関は市ホームページをご覧ください。詳細は厚生労働省ホームページでもご確認ください。

市HP▶
「子宮頸がん予防
接種について」



厚労省HP▶
「HPV
ワクチン」



子宮頸がん
検診を
受けましょう

子宮頸がんを苦しめないために、私たちができることはHPVワクチンの接種と子宮頸がん検診の2つです。

20歳になったら、子宮頸がんを早期発見するため、子宮頸がん検診を定期的に受けることが重要です。子宮頸がん検診では、前がん病変(異形成)や子宮頸がんがないかを検査します。

ポイント1

HPVワクチンで
HPVの感染を予防

ポイント2

子宮頸がん検診で
早期発見・治療



市HP▶「婦人科検診」

ワクチンを接種していても、していなくても、20歳になったら定期的に検診を受けるよう心掛けましょう！